

国際交流基金・パリ日本文化会館
新展覧会シリーズ「トランスフィア(超域)」

真鍋 大度 + 石橋 素

2016年3月16日(水) > 5月7日(土)

Maison
de la culture
du Japon
à Paris

パリ
日本文化
会館



国際交流基金・
パリ日本文化会館

FONDATION DU JAPON /
MAISON DE LA CULTURE DU JAPON À PARIS

101bis, quai Branly 75015 Paris
M° Bir-Hakeim / RER Champ de Mars
Tel. +33(0)1 44 37 95 00 / 01
www.mcjp.fr

 MCJP.officiel  @MCJP_officiel

2階展示ホール **Salle d'exposition** (niveau 2)
火曜～土曜 12時～20時
日・祝・月曜閉館
入場無料

主催：国際交流基金・パリ日本文化会館、
パリ日本文化会館支援協会
特別助成：石橋財団
助成：大林財団
協賛：資生堂

 公益財団法人
石橋財団
ISHIBASHI FOUNDATION



公益財団法人 大林財団

【お問合せ】

飯田 真実(展示担当)
Tel. +33(0)1 44 37 95 64
m.iida@mcjp.fr

フィリップ・アケルマン(広報担当)
Tel. +33(0)1 44 37 95 24
p.achermann@mcjp.fr

「トランスフィア(超域)」

「トランスフィア」は、日本現代アートの第一線で活躍するアーティストから、新進気鋭の若手クリエイターまで、未来への鍵を示唆する創造者たちとともに拓く企画展シリーズです。

「トランス(超える)」と「スフィア(領域)」をかけあわせた名称にジャンルや国境を越えたいという願いを託し、年に3回展覧会を開催、3年間継続します。様々な表現の展観を通じて、今日の日本が誇る最先端のクリエイションの旅へと誘います。

シリーズの構想：岡部あおみ(パリ日本文化会館アーティスティック・ディレクター〈展示部門〉)

日本の現代美術はフランスでどのくらい認知されているのでしょうか？ 草間彌生や村上隆といった国際的に活躍する一部のスターを除いて、日本の現代アーティストのほとんどはフランスではあまり知られていないと言っても過言ではありません。一方で、広く楽しまれている日本の現代カルチャーもまた、マンガに見られるアート性や、ややきな臭いエロティズムなどについてばかりがよく語られるように、疲弊してきている様にも見受けられます。

国際交流基金・パリ日本文化会館(MCJP)は、1997年の開館以来、日本文化の発信拠点として伝統から現代まで日本の多様な美術をあつかった展覧会を開催してきました。最近の展覧会では「ファイバー・フューチャー：日本テキスタイルのパイオニア達」展、「内なる宇宙-高橋コレクション」展(2016年1月23日まで開催中)で日本の現代アーティストやクリエイターを精力的に紹介してきました。新シリーズとなる「トランスフィア」では、MCJPはその日本文化の発信拠点としての機能をさらに進化させ、現代のクリエイションを生み出す基地となります。「トランスフィア」シリーズのすべての展示で共通するのは、未公開作品の制作が予定されていることです。日本および日本以外の招待作家を招き、国籍を超えたコラボレーションも企画されています。また、既存作品も同時に紹介しながら、各アーティスト・クリエイターが繰り広げる世界と、展示ごとにラディカルに異なる景色をご覧ください。

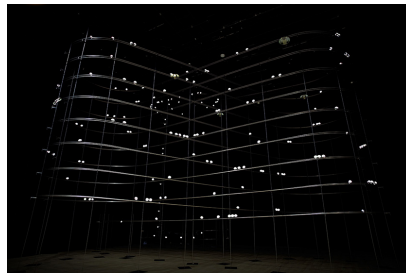
初年度〈2016年〉展覧会ラインナップ

シリーズ第1弾は、日本が誇る希代のメディアアーティスト真鍋大度と石橋素を迎え、2016年3月中旬に開幕します。6月上旬には、日本の建築ユニット・アトリエ・ワンと、フランスを拠点に活動する建築家ディディエ・フォスティノによる「マジカル・ハウス」をMCJPに建設予定。9月には、内藤礼が初めて故郷のヒロシマに取り組んだ祈りのための空間をパリで発表します。

#1

真鍋大度＋石橋素

2016/3/16 > 5/7



2.



3.

#2

マジカル・ハウス
(アトリエ・ワン＋
ディディエ・フォスティノ)

2016/6/7 > 7/30*



4.



5.

#3

内藤礼

2016/9/6 > 10/29*



6.



7.

*日程は前後する可能性があります。

トランスフィア #1

真鍋 大度+石橋 素

2016年3月16日(水)> 5月7日(土)

キュレーター：岡部あおみ(パリ日本文化会館アーティスティック・ディレクター〈展示部門〉)

シリーズ第1弾では、最先端の技術に精通する2人のクリエイターが私たちにその最新の創作を見せてくれます—それは、クリエイションの過程の予見不可能な進化を楽しむ二人のコンセプター(提案者)による、未知の光景が広がるインスタレーションです。パリで発表される新作は、展示室の大部分を使い、彼らが12月に日本で発表した最新作《border》—拡張現実の不確かな迷宮の中にある一連の装置とダンサーが織りなす世界—での着想の延長線上にある作品となる予定です。アートとテクノロジー、現実と仮想の境が混じりあうインスタレーションは、興奮や驚き、そして深い考察へと私たち誘うでしょう。

また、真鍋と石橋によるこれまでのプロジェクトの記録映像を上映：MIKIKO演出兼振付による同氏主宰のELEVENPLAYの公演、聴覚障害のダンサーと協働した電気刺激デバイスによる「Music for the Deaf」プロジェクト、音楽グループPerfumeのための舞台演出なども発見／再発見できます。

極めて高い創意のあるプログラミングを行う真鍋大度と、卓越したデバイス技術をもつ石橋素。この2人によって、芸術と科学技術は融合され最先端の風景が描き出されます。彼らはウェブやインタラクティブデザインなどの領域で、研究開発と斬新な実験を重ねるRhizomatiks Research(ライゾマティクス リサーチ)のディレクターです。女性ダンサーとドローンの共演が驚きを与えた現代創作ダンス公演の実現にも協力しました(《MOSAIC》、2014年)。

また、アルス・エレクトロニカで受賞した詩的な《particles》をはじめ、レーザー光線による《pulse》、白い球体の写真を撮るとカラフルな色彩が現れる《rate》などでも、未知の戦慄と美しさを湛える空間構成を展開して来しています。

rhizomatiks.com / rzm-research.com



アーティストトーク 真鍋大度+石橋素

2016年3月15日(火) 18h30-

地上階小ホール Petite salle (rez-de-chaussée)

参加無料/要ウェブ予約: www.mcjp.fr

逐次通訳(日本語→フランス語)

所要時間: 1時間30分

司会: 岡部あおみ(パリ日本文化会館アーティスティック・ディレクター〈展示部門〉)

ゲスト: ドミニク・ムロン(美術批評、インデペンデント・キュレーター)、

セドリック・ユシェ(在ナントのデジタルミュージック&アートセンター「ステレオリュクス」および「スコピトン・フェスティバル」デジタルアート事業プログラム担当)

[rhizomatiks](http://rhizomatiks.com) Research

Stereolux

真鍋大度

(1976年東京都生まれ、東京都を拠点に活動)

アーティスト／プログラマー(サウンドデザイン、インタラクティブデザイン)

東京理科大学理学部数学科卒業、大手企業システムエンジニアを経て、国際情報科学芸術アカデミー(IAMAS)に進学。2006年、ウェブからインタラクティブデザインまで幅広いメディアをカバーするデザインファーム「Rhizomatiks(ライゾマティクス)」を立ち上げる。2015年よりRhizomatiksの中でも研究開発的要素の強いプロジェクトを行う「Rhizomatiks Research(ライゾマティクス リサーチ)」を石橋素氏と共同主宰。ジャンルやフィールドを問わず、プログラミングを駆使して様々なプロジェクトに参加し、テクノロジーに芸術を融合した作品を最先端のクリエイションとして発信している。石橋素氏との共作《particles》は2011年、世界で最も伝統あるメディアアートのコンペティション「Prix Ars Electronica(プリ・アルスエレクトロニカ)」のインタラクティブ部門にて The Award of Distinction(準グランプリ)を受賞。同年よりダンスカンパニーELEVENPLAYとのコラボレーションをスタート。新たな身体表現を発明するためにコンピュータービジョンなどの機械学習技術、ドローン、ロボットアームなどのテクノロジーを用いて作品制作を行う。

daito.ws

石橋素

(1975年静岡県生まれ、東京都を拠点に活動)

エンジニア/アーティスト

東京工業大学制御システム工学科、国際情報科学芸術アカデミー(IAMAS)卒業。

デバイス制作を主軸に、数多くの広告プロジェクトやアート作品制作、ワークショップ、ミュージックビデオ制作など、精力的に活動を行う。過去にArs Electronica優秀賞、文化庁メディア芸術祭優秀賞受賞。2015年より、アート、テクノロジー、エンターテインメントを活動の中心とした研究・開発部門「Rhizomatiks Research」を真鍋大度と共同主宰する。

motoi.ws

トランスフィア #2,#3

マジカル・ハウス(アトリエ・ワン+ディディエ・フォスティノ)

2016年6月7日 > 7月30日*

東京を拠点に活動するアトリエ・ワン(塚本由晴+貝島桃代)と、パリを拠点に活動するディディエ・フォスティノは、ともにオリジナリティと創意に富んだ建築界の「異端児」。21世紀以降に活躍する同世代の建築家を代表する存在でもあり、MCJPでは建築の定義を塗り替える新たな光景を私たちに提示します。

キュレーター：ハウ・ハンル(ローマ国立21世紀美術館アーティスティック・ディレクター、国際交流基金「トランスフィア」企画委員)

内藤礼

2016年9月6日 > 10月29日*

1961年広島県生まれ、1997年ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展・日本館代表。2013年、広島県立美術館で発表された作品《タマ／アニマ(わたしに息を吹きかけてください)》は、内藤が初めて「原爆」という問題に取り組んだ、慰霊の、そして地上の生のための祈りの空間です。2014年、改装した東京都庭園美術館での個展「内藤礼 信の感情」では新作の絵画作品《color beginning》および彫刻作品《ひと》を発表しました。

キュレーター：岡部あおみ(パリ日本文化会館アーティスティック・ディレクター〈展示部門〉)

*日程は前後する可能性があります。

1. Photo by Muryo Homma (Rhizomatiks Research) / 2. Rhizomatiks Research, *particles* at YCAM © 2011, photo by Ryuichi Maruo (YCAM) / 3. Rhizomatiks Research + ELEVENPLAY, *border*, 2015, photo by Muryo Homma (Rhizomatiks Research) / 4. アトリエ・ワン《スモール・ケーススタディ・ハウス》, 2009 © Atelier Bow-Wow. Photo : Scott Groller / 5. Didier Faustino, *This is not a Love Song*, 2015 © ADAGP. Work created with the support of AA - Architectural Association / 6. & 7. 内藤礼《タマ／アニマ(わたしに息を吹きかけてください)》, 2013, photo by Naoya Hatakeyama, courtesy of Gallery Koyanagi (6.《ひと》(#317)), 2012 + 被爆したガラス瓶 : 広島平和記念資料館蔵)